

申
5
号

2024年度年末手当に関する申し入れ 第2回交渉をおこなう！会社主張

- 社会情勢の認識は貴側と変わらない。物価上昇に対するものは賞与だけでなく、他の基本給の改定や55歳減額制度の廃止のところでも充てているという認識である。平均基準内賃金も26万円を超えている。補助金がありながらも上期は黒字という結果はついて来ているが、今後も予断は許さない状況。上期に対するものなので、今出せる最大値を出していく考えだ。
- モチベーションに関しても個人差はあるが、出来るだけ多くの社員に期待を持ってもらえるような賞与にしていきたい。コロナ禍前と比較しても、社員数が減りながらも平均基準内賃金は上昇している。1箇月で見ると微増なので肌感覚では薄いですが、当社としても実質賃金は上昇傾向にある。
- 今日の議論を経て、皆さんの意見を加味し経営陣と一緒に数字を積み上げていきたい考えだ。回答書についても、会社の考え方や気持ちを、社員の皆さんへ伝えるようにしていきたい。
- 社内でも限られた要員の中、輸送力を集中させたい路線にピンポイントで輸送力を充てている。特需の路線にいかにか輸送力を集中させるか、そこが公共交通としての使命であり、今後増収を続けていくためにも出せる限りは出していきたい。波動があるので定期便化は難しいが、臨時超勤での対応と運賃値上げでより収益を上げたい考えだ。ネガティブなところと言えば、今後の輸送コストの増加、特に減価償却費が現在は低い。今後増収していく為にも、新車の導入は必要不可欠でありその償却費というものは増加していく。更に来年度からは高速道路代の値上げもある。また出来るだけ転勤者を発生させない為にも各支店の採用状況にも偏りが生まれてしまうが、そこは業務量調整で対応していきたい。一方、臨時の収益は会社としても水物の収益と考えている。そこだけを当てにはできないので運賃改定は必須と考える。賞与も安定的に支給していくには将来のことも見据えて経営していかななくてはならず、現状の体力を鑑みただで、出さないという訳ではないが今出せるもので考えていきたい。
- 補助金といった外的要因があったとはいえ、この上期の黒字は紛れもなく社員の協力なくしてはなしえなかった数字。改めて御礼申し上げたい。とはいえインバウンドだけに傾注するのは良くないというのは貴側と同じ認識である。今の路線をよりお客様の望まれる路線に成長させ応えて行きたい。既存のお客様に、如何に頼って頂ける公共交通であるかがこれからの成長のポイントとなってくる。
- 物差しが変わったというが、間違いなくコロナ禍の時と賞与に対する認識は変わっている。今再び業績連動給としての意味合いが強くなっている。そこには業績連動分だけでなく、これからの期待値を込めるものも会社として必要だと考えるし、賞与の数字が在籍者のモチベーション、転職時の判断材料、退職決断の要因であることは理解している。
- 賞与の数字が大きなウエイトを持つことは大きく認識をしている。しかしながら賞与だけでなく、減額制度の廃止、賃上げもそうだが、今後は若年層や整備士に対する待遇改善のスポットも忘れてはならない。
- 期待値は違った形でも示していきたい。全てに腹落ちしてもらおうというのは難しいが、貴側にも納得が得られ、そして次に繋げて頂ける回答をしていきたいと考える。

**全ての仲間が協力してコロナを乗り越えた結果が今期の上半期黒字達成である！
社員の協力無くして会社の成長はない！今でき得る最大限の支給を要求する！**